



けんせつサポート

けんサポ Center News 第57号 2025年12月

ようこそ、皆さん
ビートです



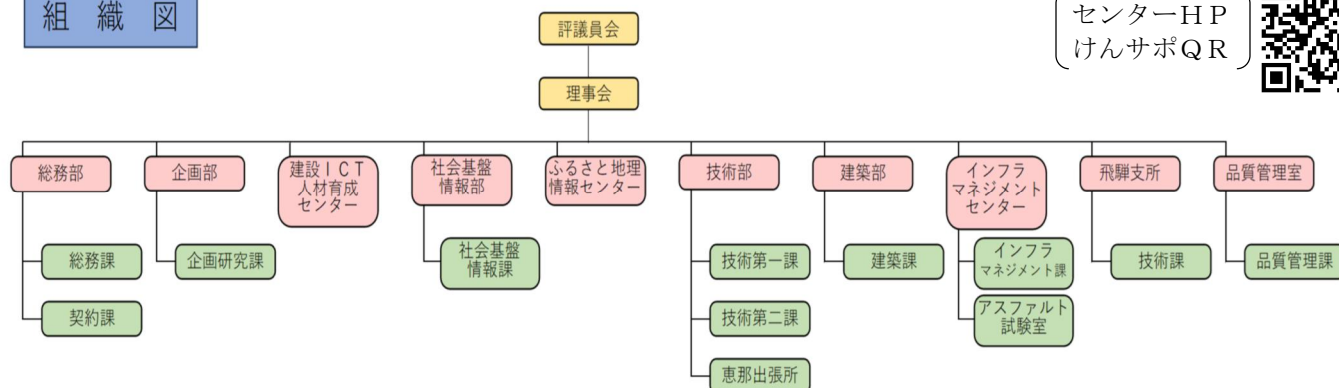
Contents

- センターの仕事① 社会基盤情報部 (P 1) ○お知らせ
- センターの仕事② 技術部 (P 2) ・「岐阜県自然共生工法研究会」活動報告
- センターの仕事③ 建築部 (P 2) (P 4)
- 特集 建設業における「AI」の活用 (P 3) ・「岐阜社会基盤研究所」活動報告 (P 4)

いつも「けんサポ」をお読みいただき、ありがとうございます。前号(第56号)では、センター内3つの組織の仕事をご紹介しましたが、今回も引き続き紹介させていただきます。

今回ご紹介するのは、地域社会の基盤を支える重要な役割を担う「社会基盤情報部」、「技術部」及び「建築部」です。(前号でご紹介した、「総務部」、「企画部」及び「ふるさと地理情報センター」について、もう一度お読みになりたい方は、センターホームページにて掲載中です。)

組 織 図



センターHP
けんサポQR



○センターの仕事① ～社会基盤情報部～

(窓口) 社会基盤情報部
0584-81-1357

DXで行政運営を支える

社会基盤情報部は、GISと最新モバイル技術を駆使し、自治体業務のDXを推進しています。県域統合型GISを基盤とした「センターオフィスパッケージ(COP)」は、県内市町村の業務効率化とコスト削減という行政の根幹課題を、具体的な実践を通して解決に導きます。

COPは、行政主要業務をカバーする6つのシステム群で構成され、自治体ニーズに合わせて柔軟に導入可能です。優れたコストパフォーマンスで高い評価をいただいております。

特に基本料金に含まれる「スマートパトロールシステム」は、モバイル端末で現地から点検情報を入力し、パトロール日誌を自動作成するため、デスク作業を大幅に削減します。災害時には「情報収集モード」で被災情報をリアルタイム共有し、迅速な初動対応と地域安全確保を強力に支援します。

また「(苦情)受付処理システム」は、苦情を位置情報と紐づけ、受付状況を明確に管理することで、質の高い行政サービス提供を支援するとともに要望書を電子化し、年度を超えた履歴管理を可能にするため、業務効率化に大きく貢献します。COPは職員の負担を軽減し、住民サービスに注力できる環境を実現します。初期費用だけでなくランニングコストも抑えられるCOPを導入して、この機会に貴庁のDXを賢く加速しませんか。

システム名	単価(税抜)
基本料金 (スマートパトロールシステムの利用含む)	417,000円・年
受付処理システム	17,000円・年
施設台帳システム※	17,000円・年
上下水道台帳システム※	17,000円・年
橋梁台帳管理システム※	17,000円・年
道路台帳調書作成システム※	17,000円・年

※：データの初期整備費用やデータ更新費用は利用料金に含まれておりませんので、必要な場合は別途見積りさせていただきます。

○センターの仕事② ～技術部～

(窓口) 技術部
0584-81-1368

インフラの未来を確かな技術力で形作る

技術部は、岐阜県および県内市町村が行う建設事業全般において、計画の初期段階から事業評価までを一貫して支援する、インフラ整備の要となるプロフェッショナル集団です。道路、橋梁、トンネル、河川、上下水道施設など、多岐にわたるインフラの設計支援、積算、施工管理、工事検査といった総合的かつ一体的な技術支援に重点を置いています。



特に、ダムや大規模な橋梁、複雑な機械設備といった特殊工事を含む多様な工事の積算支援を行うほか、最新情報の入手や積算スキルの向上に努めています。

また、公共工事の適法性、経済性、効率性、有効性を監査・評価する工事検査・工事監査支援も担い、県民の信頼に応える行政運営を技術面から支えます。

そして、地域の安全を守る最前線として、災害復旧支援は不可欠なミッションです。発災直後の調査から復旧工事の完了まで、事業制度の理解と豊富な経験に基づき、迅速かつ適切な対応で地域社会の早期復興を力強くサポートします。

○センターの仕事③ ～建築部～

(窓口) 建築部
0584-71-7022

地域住民が利用する施設の品質と安全を確保する

建築部は、県内で唯一の「公共工事発注者支援機関（建築）」であり、公平性、中立性、守秘性を確保しながら地域の公共建築事業を支えています。県や市町村の公共建築物の新築、改修、解体工事に関する様々な支援を行っており、地域の皆様が利用する施設の品質と安全を確保する重要な役割を担っています。職員は、豊富な実績と多様な資格を持つ技術者で組織されており、その専門性の高さが強みです。

業務は、計画段階の技術的な助言から始まり、設計委託仕様書の作成、工事費の積算支援、そして現場での工事管理・監督業務まで、多岐にわたります。発注者の代理人として、施工方法の検討、材料の確認、工事の立会いを行い、専門知識を要する技術面を支援することで、工事の品質を確保します。

また、建築基準法で必要な建築士による工事監理業務や、完了検査申請の支援、国庫補助案件の会計検査技術支援にも対応します。そのほか建築基準法第12条に基づく建物定期点検業務、施設の長寿化工事や解体工事の積算・管理支援など、公共建築物のライフサイクル全体に関わる広範な支援業務を展開しています。



特集 建設業における「AI」の活用

はじめに

今や世の中には新聞記事やネット記事をはじめ、あらゆるところに「AI」という言葉があふれています。誰もが身近になったAI（人工知能）ですが、普段の生活でも、携帯電話などの音声アシスタント、お掃除ロボット、自動運転・運転支援機能付き自動車など、私たちの生活をより便利で快適にしています。仕事をする上ではどうでしょう。様々な業務で品質向上、業務効率化、情報共有、顧客対応、企画提案などにAIが活用され、欠かすことのできない存在（機能）となっています。では、建設業ではどうでしょうか。生成AIの可能性について考えてみましょう。

建設業における生成AIの活用は、慢性的な人手不足や高齢化といった業界の課題を解決する重要な鍵として注目されています。設計から施工、維持管理まで幅広い工程で導入が進んでおり、業務効率化や生産性向上、安全性向上に大きく貢献しているといっています。

建設業における生成AIの活用方法

1 設計・企画

スケッチや簡単な指示から、建物のデザイン案を複数生成します。過去の設計データや制約条件を学習させることで、建築基準法や日照条件などを考慮した最適なプランを提案できます。これにより、設計者は初期段階の検討時間を大幅に短縮し、より創造的な業務に集中できます。

2 施工管理

膨大な現場データ（設計図、進捗、天候など）を分析し、最適な工程表を自動で作成・修正します。また、現場の状況をリアルタイムで監視し、問題発生の予兆を検知して迅速な対応を支援します。

3 検査・品質管理

ドローンで撮影した画像や現場カメラの映像をAIが解析し、外壁タイルの浮きや鉄筋継手の不良などを自動で判定します。これにより、人手による目視検査に比べて、作業時間の短縮と検査精度の向上が実現します。

4 社内業務の効率化

社内文書を学習した生成AIを活用することで、ナレッジ検索や議事録作成、報告書の自動生成など、事務作業を効率化できます。これにより、従業員は専門的な業務に集中できるようになります。

メリットと課題

1 メリット

(1)生産性・効率の向上

設計や事務作業の自動化により、業務プロセスが効率化し、生産性が向上します。

工程管理の最適化により、無駄な作業や手戻りを削減し、工期短縮につながります。

(2)安全性・品質の向上

現場カメラの映像解析による危険予知や、検査の自動化により、労働災害のリスクを低減します。

AIによる精密な品質チェックで、施工不良を防ぎ、品質を標準化できます。

(3)人材不足の解消

単純作業やルーティンワークをAIが担うことで、人手不足を補い、経験が浅い従業員でも質の高い業務が可能になります。

熟練技術者のノウハウをAIに学習させることで、技術継承を支援します。

2 課題

(1)高コスト

AIシステムの開発や導入には、多額の初期費用と維持管理コストがかかります。中小企業にとっては大きな負担となる場合があります。

(2)現場とのギャップ

生成AIは膨大なデータに基づいて回答を生成しますが、現場特有の慣習や地域の条例、土地の形状など、個別の事情への対応が困難な場合があります。

AIの出力を過信せず、最終的には人間によるチェックが必要です。

(3)セキュリティリスク

AIの学習には大量のデータが必要となるため、情報漏洩やプライバシー侵害のリスクが存在します。厳格なセキュリティ対策が不可欠です。

まとめ

AIの導入には課題はありますが、私たちを取り巻く環境が常に変化する中、「AI」は、強力なツールとして建設業の発展につながるものと思っています。

岐阜県内の建設行政・建設事業の支援業務を担う当センターが、いかにAIを活用して、私たちの業務効率化も進めつつ、建設業に携わる方々への支援の充実を図ることができかを、さらに研究を深め進めてまいりたいと考えています。



※生成AIで作成したイメージです

「第13回岐阜県自然共生事例発表会」を開催しました。

水と緑があふれ、多種多様な生物を育む自然豊かな岐阜県土の保全・復元を図り、次の世代にすばらしい県土を引き継いでいくために産業界・学会・地域住民・行政の協働による自然と共生した県土づくりを目指して「岐阜県自然共生工法研究会」を平成13年12月に設立し、自然共生工法の充実・展開を軸に活動を続けています。

その活動の一つとして、自然との共生を目指した取組事例（17事例）の発表会を開催しました。また、部門ごとに最優秀賞、優秀賞を決定し表彰を行いました。

- 開催日 令和7年10月31日（金）
- 会場 岐阜県庁「ミナモホール」
- 参加者数 313名
- 最優秀賞



発表概要QR



◆研究・技術部門

「ダム下流の環境評価ツール ～河床礫の露出高の簡易予測モデル～」
発表者：自然共生研究センター 宮川幸雄さん

◆行政部門

「持続可能な自然共生川づくりに向けた人づくりの取組み」
発表者：岐阜県県土整備部河川課 河村一輝さん

◆教育・地域部門

「ふるさと岐阜のオオサンショウウオを守る
～国産個体の生息地を交雑個体から取り戻すために～」
発表者：岐阜県立大垣北高等学校 自然科学部オオサンショウウオ班の皆さん



○お知らせ 「岐阜社会基盤研究所」 活動報告

「岐阜社会基盤研究所 第22回研究等発表会」を開催しました。

産業界・学会・行政それぞれが持ち得るノウハウを結集、連携することで、県内建設業界の技術力の向上・活性化を目指して「岐阜社会基盤研究所」を平成14年12月に設立し、以来、「新たな研究所のシステムの確立」、「県内建設業会の活性化」、「新技術の研究開発・技術課題の解決」、「工法検討へのアドバイス」を目標として活動しています。

その活動の成果を発表する、「研究等発表会（4事例）」を開催しました。また、発表会時には、建設現場の撮影などでご活躍の写真家 山崎エリナさんから「写真家が見た現場の魅力 ～感動から感謝へ～」と題してご講演いただきました。

- 開催日 令和7年11月6日（木）
- 会場 ホテルリソル岐阜
- 参加者数 88名
- 発表内容



発表内容QR



- ◆「地域の測量設計業におけるDXを活用した災害対応力向上の取り組み」（一社）県測量設計業協会
- ◆「グリーンインフラについて（現地調査報告とまとめ）」（一社）県特殊工事技術協会
- ◆「公益法人における生成AI導入実証検証」（公財）県建設研究センター
- ◆「道路の防草対策に関する考察」（公財）県建設研究センター

